

令和6年 2月 9日 (金)

あさひの日だまり

NO.37

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～月曜日は大雪でした～

久しぶりに雪かきをしました

今週は出張やら会議やらがあつて、何だか落ち着かない心持のまま週末をむかえようとしています。「今週はお便りは無しにさせてもらおう」と昨日は心に決めていました。

「今週は子どもたちの様子に目を注ぐこともできずに過ぎていてこれではいけないな。きっと一人ひとり色々なことがあつて一週間前の子どもとは変わっているはずなのに」と反省の思いが湧いてきます。と同時にふと火曜日の朝の雪かきの様子が思い出されました。私が掲げている「挑戦」にもお便りを継続して書き続けることはつながるようにも思い、とりとめのないお便りになってしまいましたが、雪かきの様子を書かせていただき何とかお便りを継続させていただこうと思います。本当にお時間が許すときに流し読みで目を通していただけたら幸いです。

雪は月曜日の午後あたりから本格的に降り出したように記憶しています。こどもたちの下校時間にだいぶ降雪が予想され、安全のために下校時間を1時間切り上げました。全校3時5分の下校とし、その後の活動もすべてなしにしました。保護者の皆様には急な日課の変更とお迎えへのご協力本当にありがとうございました。

予想通りひっきりなしに雪は降り続き、8時か9時ころまでしっかり降りました。私の家は田園地帯に立っているものですから、田畑を含めた雪かきの必要な面積がけっこうあります。家に帰ってから頭に装着するライトをつけて除雪機で1時間ほど雪かきをしました。自宅の雪かきをしながら「明日は何時に学校へ行こうか」とずっと考えていました。「他の先生方よりずいぶん遅くなってしまったら申し訳ないな」「通常1時間ほどかかる道のりだけれど雪の影響でもっとかかるだろうな」などという思いもわいてきました。そしていつも雪かきのたびに思い出すこんな歌が

ふと思い起こされました。『深雪（みゆき）せる野路（のじ）に小さき沓（くつ）の跡（あと）われこそ先に行かましものを』これはかつて下伊那の平谷村の学校で先生をされていたのが林 芋村先生がお読みになった歌です。

林先生は、深く雪の降った朝、学校へ行く道すがら、先に学校へ向かったであろう子どもの足跡を見つけます。その小さな靴跡を見つめながら、先生は子どもへの愛情と同時に子どもより先にこの路を歩み、子どもが歩きやすいように踏み固めておけなかった自分を責める気持ちを持たれたのです。

翌朝、私が学校に着いた際にはすでに何人もの先生方が雪かきを手にもくもくと雪と格闘されていました。時間はまだ7時になっていません「子どもたちが来る前に昇降口の前だけはせめてきれいにしておこう」という思いがその背中から感じられました。申し訳ない思いと本当に有難い思いがしました。

雪かきをして下さっている人の中にどの先生かわからない方がいました。近づいてみるとなんとお二人の保護者の方が一緒に雪かきをして下さっているではないですか。お礼を申し上げると。「雪の日はお互い様ですよ」とおっしゃいました。ご自分の家の雪かきもおありのはずです。それを終えて学校へ足を運ぼうと考

えていただけたことに本当に感謝の思いです。学校の前の歩道もすでにどなたかの手によって雪が書かれていました。そのうちに二人の児童が雪かきに加わってくれました。私たちはこういう地域や保護者そして子どもたちに見えないところで支えられています。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

本校にも歌の額があります

